

学生記入用

実践型インターンシップⅠ (大学間連携共同教育推進事業)
目標設定シート

※インターンシップ参加の際、目標設定シートと目標評価シートを企業のご担当の方に渡してください。

私、 (氏名記入) は、今回のインターンシップを通じて
 下記の項目の基礎力の向上を目標とします。

目標 1. (10項目のルーブリック) 具体的行動目標 (裏面のE T人間力[10項目のルーブリック]の文章を参考に)

項目番号を記入

レベルの数値を記入 から に向上します。

.....

.....

.....

目標 2. (10項目のルーブリック) 具体的行動目標 (裏面のE T人間力[10項目のルーブリック]の文章を参考に)

項目番号を記入

レベルの数値を記入 から に向上します。

.....

.....

.....

目標 3. (10項目のルーブリック) 具体的行動目標 (裏面のE T人間力[10項目のルーブリック]の文章を参考に)

項目番号を記入

レベルの数値を記入 から に向上します。

.....

.....

.....

目標 4. 特に意識するコミュニケーションをチェック (4項目のコミュニケーションスキル)

① 指示の内容を確実に理解するために、あいまいな点は必ず確認し、全てメモにとる。

② 口頭で報告するときは、タイミングをのがさず事実に基づき要点を簡潔に報告する。また、メールでの報告は、必ず相手に読んでもらえる工夫をする。

③ 文書で報告する時は、所定の様式・期日を守り、必要に応じて図表などを用い、わかりやすく表現する。

④ 作業を通じて見つけた問題点を指摘するときや改善案を提言するときは、内容を多面的に検討し、自身の意見であることを明記した上で行う。

インターンシップ
 ご担当者記入用

実践型インターンシップⅠ (大学間連携共同教育推進事業)
目標評価シート

※インターンシップ終了後、目標に対する評価を記入して学生にお渡しください。

学生氏名

インターンシップ企業名 (記入者名)

インターンシップ期間 月 日 ~ 月 日(日間)

目標 1. に対する評価 評価コメント (裏面のE T人間力[10項目のルーブリック]の文章を参考に)

レベルの数値を記入

.....

.....

.....

目標 2. に対する評価 評価コメント (裏面のE T人間力[10項目のルーブリック]の文章を参考に)

レベルの数値を記入

.....

.....

.....

目標 3. に対する評価 評価コメント (裏面のE T人間力[10項目のルーブリック]の文章を参考に)

レベルの数値を記入

.....

.....

.....

目標 4. に対する評価 評価コメント (裏面のE T人間力[4項目のコミュニケーションスキル]を参考に)

.....

.....

その他アドバイス (学生設定以外の項目へのアドバイス)

.....

.....



ET人間カテゴリーブリック

ET技術力

組み込みシステム技術者に、特に必要とされる人間力を10項目のルーブリックを用いて、自分がどの程度の力を持っているのか自己評価を行います。自己評価の際には「想定する場面」で「自身はどの様に行動するか、振る舞うか」を考えて、選択肢の中で自分に近いと思われるレベルを選択します。

10項目のルーブリック

人に対して

Q1 初対面でも笑顔で、自分から親しみやすい雰囲気をつくることができる
想定する場面:初対面の人と接するとき

- 1 無愛想な方だ
- 2
- 3 自分から話しかけることはないが、相手から話しかけられれば言葉を返すことができる
- 4
- 5 自分から話しかけることはないが、相手から話しかけられれば自然に会話をすることができる
- 6
- 7 自ら自然に会話することができる
- 8
- 9 気軽に笑顔で、自ら話しかけ、会話を続けることができる

Q2 人に興味をもち、相手の立場や気持ちを思いやり価値観を認めながら、話に共感し受け止めることができる
想定する場面:他人と関係を築いていくとき

- 1 人に対してあまり関心がない方で、自分と異なる意見や価値観の人とは付き合わない方だ
- 2
- 3 ある程度人に興味をもち、自分と異なる意見や価値観の人の話にも、耳を傾けることはできる
- 4
- 5 人に興味をもち、自分と異なる意見や価値観の人の話にも、すすんで興味を示す方だ
- 6
- 7 人に興味をもち、自分と異なる意見や価値観の人の話に興味を示すだけでなく、相手の立場に立って共感することができる
- 8
- 9 人に興味をもち、自分と異なる意見や価値観の人の話に共感するだけでなく、尊重し柔軟に受け入れることができる

周囲や集団に対して

Q3 グループ活動において、自分や周囲の役割を理解し、互いに連携・協力して物事を行うことができる
想定する場面:グループ活動での自分の役割を理解する場面

- 1 割り当てられたことについて期限を守れなかったり、周囲に迷惑をかけることがよくある
- 2
- 3 割り当てられたことは人から非難されない程度に取り組む
- 4
- 5 周囲に迷惑をかけないよう、自分の担当の仕事に、ある程度責任を持って取り組む
- 6
- 7 自分に割り当てられたことは、最良の結果がでるように、自分なりに工夫して、課題に取り組む
- 8
- 9 自分の行動が周囲にどんな影響を及ぼすかを考え、最良の結果がでるように、自ら役割を決めて行動できる

Q4 グループ活動に必要な情報や知識、ノウハウを提供しあい、相互に有効活用を行うことができる
想定する場面:グループ活動での情報共有の場面

- 1 自分もっている情報や知識、ノウハウを他の人に伝えたり、教えたりすることは少ない
- 2
- 3 自分もっている情報や知識、ノウハウを、周囲から求められれば伝えることができる
- 4
- 5 自分もっている有用な情報や知識、ノウハウはその必要性を判断しながら、ある程度周囲に伝える方だ
- 6
- 7 自分もっている有用な情報や知識、ノウハウを漏らさず伝えるよう、自らすすんで周囲に報告・連絡する方だ
- 8
- 9 自分もっている情報や知識、ノウハウを周囲に提供するだけでなく、周囲からも有用な情報や知識、ノウハウを引き出すことができる

話し合う場面

Q5 相手や場面に合わせて、自分の考えを整理して述べ伝えることができる
想定する場面:自らの意見を伝える場面

- 1 自分の考えを整理せずに思いつきで発言しがちで、相手に話が伝わらないことが多い
- 2
- 3 自分の考えを整理しきれず、主張したいポイントをうまく説明できないことがある
- 4
- 5 自分の考えを、自分なりに整理し、筋道を立てて伝えることができる
- 6
- 7 自分の考えを、整理して伝えるだけでなく、相手の関心に合わせて、分かりやすく伝えることができる
- 8
- 9 自分の考えを、相手に分かり易く伝えるだけでなく、意思・情熱を込めて印象深く伝えることができる

Q6 議論の活性化や展開のために、自ら周囲に働きかけ、建設的・創造的に方向づけることができる
想定する場面:グループでディスカッションを進展させる場面

- 1 発言しなかったり、他者の発言に対して賛成・反対を示さないなど、議論に積極的に関わらないことが多い
- 2
- 3 自信のあることについては、自分の意見を述べたり、他者の発言に賛成・反対を返したりする
- 4
- 5 多少自信の無いことでも、求められれば、賛成・反対や自分の意見を述べることができる
- 6
- 7 大抵の場合、自らすすんで意見を述べ、議論が活発になるように貢献することができる
- 8
- 9 自分の意見をすすんで述べるだけでなく、周囲の意見を整理したり方向づけたりしながら、意見を発展させていくことができる

自分自身について

Q7 自分の感情や気持ちを認識し、客観的に言動をコントロールすることで、より良い相互関係を築くことができる
想定する場面:自己を客観視する場面

- 1 自分の感情をコントロール出来ず、怒り、焦り、動揺、不安といった感情のままに行動することが多い
- 2
- 3 自分の感情をコントロールするのがやや苦手で、少し強いストレスが掛かると、動揺や落ち込みを引き起こすことがある
- 4
- 5 自分の感情の変化を捉え、ストレスの程度によっては、周囲に相談したり、気分転換することで、動揺や落ち込みを引き起こさないようにしている
- 6
- 7 自分の感情変化に合わせて、対処する方法を心得ており、大抵の場面では、状況に応じて客観的に自分の言動をコントロールすることができる
- 8
- 9 自分の感情変化だけでなく、自分の言動が相手にどんな影響を与えているかを客観的に捉え、相互の関係を築いていくことができる

Q8 自分の役割を自覚し、自らの責任と判断で物事を進めることができる
想定する場面:自分から動き出す場面

- 1 自らすすんで行動するより、細かなことまで人からの指示を待って行動することが多い
- 2
- 3 ある程度任せられたことでも、自分の責任で行うより、途中途中で人から判断してもらいながら進めることが多い
- 4
- 5 任せられたことであれば、細かな指示を仰がなくても、自分の責任で判断しながら進めることができる
- 6
- 7 自らの役割を自覚し、すべきことを自分で考えて行動に移すことができる
- 8
- 9 求められたり期待される以上のことを、自発的に責任をもって行うことができる

課題を解決するために

Q9 適切な方法で必要な情報を収集し、客観的に分析し、本質的な問題を見極めることができる
想定する場面:課題を見つける場面

- 1 必要な情報を集めることや、集めた情報を、整理・分類することは苦手な方だ
- 2
- 3 自分なりに情報収集し、集めた情報を整理・分析はするが、情報が少なかったり、分析が浅いことが多い
- 4
- 5 ある程度広く情報を集めたり、できるだけ客観的に情報を整理・分析することができる
- 6
- 7 必要な観点を検討し幅広く情報を集めた上で、事実に基づいて客観的に情報を分析することができる
- 8
- 9 複雑な問題でも、情報を効率良く的確に収集し、集めた情報を客観的、かつ分かり易く整理・分析することができる

Q10 明確な目標を立て、実現性の高い計画を、必要な修正や調整を柔軟に行いながら着実に実行していくことができる
想定する場面:課題解決のため行動する場面

- 1 言い訳をつけて実行に移さないことが多い。また、やり始めても無計画なので、物事が上手く進まない
- 2
- 3 嫌々ながらも行動に移すが、目標が曖昧で、行動の優先順位がうまくつけられないことが多い
- 4
- 5 短期的なテーマであれば、自分なりに具体的な目標や、実現性の高い計画を立てて取り組むことができる
- 6
- 7 やるべきことだけでなく、やったほうが良いことについても、具体的目標と実現性の高い計画をきっちりと立て、主体的に取り組むことができる
- 8
- 9 自分のことだけでなく、全体的な視野に立って計画を立て行動することができる。また、計画の先行きを予測し、目標達成に向けて柔軟に行動を修正することができる

4項目のチェック項目

チーム内において必要なコミュニケーションスキル

チーム活動におけるコミュニケーションスキルとして、指示内容を正確に理解する能力と、ポイントをおさえた報告を行う能力が特に、新入社員時代に求められます。必要とされるスキルを自分が持っているのか自己評価を行います。

- 指示内容を確実に理解するために、あいまいな点は必ず確認し、全てをメモにとる。
- 口頭で報告するときは、タイミングをのがさず事実に基づき要点を簡潔に報告する。また、メールでの報告は、必ず相手に読んでもらえる工夫をする。
- 文書で報告するときは、所定の様式・期日を守り、必要に応じて図表などを用い、わかりやすく表現する。
- 作業を通じて見つけた問題点を指摘するときや改善案を提言するときは、内容を多面的に検討し、自身の意見であることを明記した上で行う。

組み込みシステム開発における、様々な技術者がかかわる場面(例)



ソフトウェア・アーキテクト:ソフトウェアの構造と構成要素を定める役割